7　多様性　平成30年（2018年）5月10日　木曜日　大学新聞　（第3種郵便物認可）　第155号

トップインタビュー

グローバル化の未来を問う
〝ダイバーシティ〟の実現を目指して
東洋学園大学

社会で求められるのは「主体的に学ぶ力」

旦 祐介 学長

だん・ゆうすけ● 1980年、東京大学教養学部教養学科イギリス分科卒業、米国アマースト大学教養学部卒業（政治学）、東京大学大学院総合文化研究科国際関係論専門課程博士課程単位取得満期退学。学校法人東海大学国際本部長、東洋学園大学副学長を経て現職。

―4月1日の就任に当たり、東洋学園大学の教育ビジョンをお聞かせください。

本学は「時代の変化に応える大学」「面倒見のよい大学」の3本柱を念頭に、時代に求められる人材育成に注力しています。

「グローバル化」は世界的潮流。際がいの有無などにかかわらず、学びの機会が損なわれることがないよう修学環境の整備に努めます。

―グローバル化を掲げる貴学の英語教育とはどのようなものでしょうか。

本学ではグローバルに活躍する者を育てる「国際キャリアプログラム（I-CLP）」を実施しています。これは、少人数による徹底した英語教育と国際教養教育、そして1年間の学部留学を特徴としており、英語力の向上はもとより、主体性を磨くためのプログラムです。

3月には同プログラムに参加した1期生が卒業し、留学のほかにも英語で卒業論文を完成させるなど、成果を挙げました。同プログラムに参加した学生たちは、外資系企業への就職やユニセフ、青年海外協力隊などの国際機関での活躍の視野に入れることを期待しています。

語学留学や学部留学のほか、海外インターンシップなども推進しています。本学は、学生の能力を伸ばすきっかけになると考えています。これまでにも、ブリガリ、ヒューストンの市役所での、1月間の就業体験、短期のプログラムでは、インド、カンボジアでの就業体験などを行っています。学生のうちから貴重な経験を積んでいます。

―貴学の経営に関する指針をお聞かせください。

本学では、創立者である学田哲也先生の理念を継承しながら、大学のさらなるグローバル化を推進し、国内外に開かれた大学として成長していきたい考えです。

「グローバル化」は世界的潮流でも浸透しつつありますが、本学ではその中でも多様性、すなわちダイバーシティ社会の実現を目指しており、今年2月に「ダイバーシティ宣言」を行いました。引き続き、多様な人々が集う大学として、性別、年齢、人種、文化によって